

エッセイ Essay



今日の試練は 明日への準備

英会話講師

佐藤 エープリルリン

私はフィリピンのマニラから、北に車で2時間ほどのパンパンガ州の出身です。今から11年半前に初めて来日し、豊橋に滞在しました。その後一度帰国しましたが、田原市出身の主人との結婚を機に再び来日しました。結婚する前に主人には小学生の息子が二人いることを知らされていました。結婚したらすぐ二人の男の子のお母さんになることは不安でしたが、主人を愛し、尊敬していたので、結婚に迷いはありませんでした。これが私の選んだ道、愛している人の子とも暮らす！私はお母さんになる！と心に決めました。

豊橋で私の結婚生活が始まりました。二人の息子には「お母さん」って呼ばなくてもいいよ、「お姉ちゃん」でいいよ、「お姉ちゃん」と呼んでもらいました。その頃私は、まだ日本語も拙(つたな)く、戸惑うことばかりで、母親らしいことはできなかったの、「お姉ちゃん」と呼ばれることで気持ちが楽になりました。その方が息子たちにも良いことだと思いました。私が頑張れることは「料理」だと気づき、毎日料理番組を見てメモを取り、実践しました。今では和食はほぼ何でもできます。何より辛いと感じたのは自分の日本語能力が乏しく、息子たちと深い部分でコミュニケーションができなかったことです。難しい年頃にさしかかる子どもたちでしたので、正直悩むことはたくさんありました。でも、傷ついているのはこの子たちだから、私がこの子たちを愛し、全力でサポートしなければと思い、気持ちでは逃げずに向き合ってきました。やがて息子たちは成人し、一人暮らしを始めたのですが、昨年お兄ちゃんが戻って来ました。「お姉ちゃん、また一緒に住んでいい?」「もちろん、いいよ!」お兄ちゃんは私を頼ってくれているのだと思ったら嬉しくなりました。神様は私が耐えられない試練を与えることはな

いと知っています。今、自分に起きている試練は次への準備、これは自分に必要なことだと思ったので、乗り越えることができました。自分の中で様々な葛藤がありました。家族に恵まれ幸せです。

現在は、9歳と7歳の娘、そして来年1月に3人目が生まれます。保育園では最初戸惑いました。フィピンでは生まれてすぐ赤ちゃんの耳にピアスを入れるので、子どものピアスは普通だと思っていました。おもちゃやお菓子を持たせることもごく普通だと思っていました。私にはわからないことばかりで、思い切って一人のお母さんに聞いてみました。すると、私が日本語を話せることに驚き、わからないことがあったら何でも聞いてと親切に言ってくれました。そして、お友達がどんどん増えていきました。ある日、娘と英語でやりとりをしていると、あるお母さんが英語を教えてみたらどうかと言ってくれました。私にも役に立てることがあるのだと気付きました。こうして私は今も子どもたちに英語を教えています。タガログ語も教えています。小学校へ行って、フィリピンの子どものサポートもしています。いろんなところで声をかけてもらい、教えています。教える仕事は私が本来望む仕事ではなかったけれど、神様はいつもこの仕事を私に与えます。どうしてなのか? 人生に起こるどんなことにも意味があります。その意味を考えながら、一度きりの人生、大切に歩いていきたいと思います。

